

オオキンケイギク

＜キク科 多年草＞ 北米原産



【特徴】

花：開花期は5～7月
鮮やかな黄色の花で、
花びらの先は4～5裂する。
花の直径は、5～7cm

茎：高さ30～70cm
根本から多数の茎を伸ばして
株立ち状になる

【繁殖方法】

種子により繁殖する。
地面に落ちた種子は埋土種子集団(土壤中に発芽
せずに生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる
土壤中の種子は数年間生存することがある。

【防除方法】

5～7月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)
オオキンケイギクがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

加賀から能登まで広く分布しており、手取川をはじめとする河川敷や加賀産業道路等の道路法面で確認されています。

【影響・被害】

オオキンケイギクは、河川敷や道路の法面に繁茂しており、河川敷固有の植物等の在来種との競合や
駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあります。

オオハンゴンソウ

＜キク科 多年草＞ 北米原産



【特徴】

花：開花期は7～10月
黄色の頭状花で直径6～10cm
舌状花は10～14枚

茎：高さ1～3m
地下茎が横に走っていて群生する

葉：葉の裏にのみ短毛がある
下部の葉は長い柄がある

【繁殖方法】

種子と地下茎により繁殖する
地面に落ちた種子は埋土種子集団（土壌中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと）をつくる
土壌中の種子は数年間生存することがある

【防除方法】

7～10月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
（その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。）
オオハンゴンソウがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

主に河川敷や道路法面で生育し、安原川をはじめ、白山スーパー林道でも確認されています。

【影響・被害】

全国的にみて、国立公園の湿原など自然度の高い環境に定着し、湿原植物などの貴重な在来植物との競争や駆逐など、在来植物に対して悪影響を与える恐れがあります。

アレチウリ



＜ウリ科 1年草＞ 北米原産



写真提供: 米山競一

【特徴】

花: 開花期は8～10月
葉と茎の間に直径1cmほどの黄白色の花をつける。
果実は長さ1cm程の楕円形で鋭い棘を密生する

茎: 粗い毛を密生したつるで、長さ数～10数mになる

葉: 径10～20cm

【繁殖方法】

種子により繁殖する。
大量の種子を生産し、一部は埋土種子集団(土壤中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる。

【防除方法】

夏に繁茂したあと、秋にたくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。また、発芽期間の春～秋に複数回駆除を行うのが効果的です。刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)アレチウリは、秋には枯れてしましますが、生えていた場所の土には、たくさんの種子が含まれています。土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

荒地や土手、特に河川の肥沃地を好んで、生育・群生し、能登から加賀まで広く分布しており、犀川や梯川の下流域等で確認されています。

【影響・被害】

全国の河原や林縁で大繁茂し、在来植物との競合や駆逐などが懸念されています。他の植物に覆い被さり、それらの成長を阻害するなど、植物の多様性に悪影響を及ぼしています。また、飼料畑でも大発生して農業被害を生じています。